

## 7. 学校経営方針

### 令和2年度 東京都立南平高等学校 学校経営報告

校長 福嶋 一佳

令和2年度は、年度当初から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、臨時休業を行い、通常の教育活動ができない状況となった。そして、6月から分散登校、同月下旬から一斉登校となった。この対応で、例年示していた学校経営計画の実現をはじめ、新たな日常の中で、今までの指導と新たに指導法を開発し、さらなる向上を目指してきた。

目標1 学力向上「わかるからできるへ、授業の質の保証」

【臨時休業中】

- ・オンライン授業の実施：教員自ら手探りの中、本校としての方策を策定し、教員同士で学び合い、教え合いを通して、学校全体して共通理解のもと実施できた。
- ・生徒の学び：従来からの紙による教材を郵送等で生徒へ配布し、それを活用した学習のほか、オンラインと合わせて自宅学習も生徒自身が進んで学習ができた。

【臨時休業後】

- ・一斉授業再開後：ガイドラインに示された感染拡大防止策を講じながら、年間授業計画を見直し、授業時間の拡大を図れた。
- ・オンライン学習の活用：オンライン授業の成果を一斉授業へ取り入れたことで、従来の学びとの融合が図られ、その結果、教育内容が向上でき、当初予定していた教育活動をすべてが実施できるとともに、教科によっては、当初予定以上の内容やきめ細やかな指導ができた。

目標2 進路実現「高い志に向けてチャレンジさせる指導」

【臨時休業中】

- ・進路選択：オンラインや電話等で、個別の指導を行ったことで、3年間の進路指導計画に基づき、組織的・計画的な進路指導ができた。臨時休業中、生徒は自宅で自主的に自己の適性を見極め、自ら進路情報を調べ、活用し、納得のいく進路選択を行えた。

【臨時休業後】

- ・進路実現支援体制：対面で収集した大学入学共通テストや最新の進路情報を生徒・保護者に提供するとともに、コロナ禍で状況が様々変化する中、大学との連携を強化し、面談等による個別指導を行って進路実現支援体制を強化した。推薦入試の面接もオンラインに切れかえる大学があり、その対応の指導も行った。その結果、生徒の希望進路実現が図れた。

目標3 心・知・体を磨く「学校生活全般に渡って、濃やかな指導」

【臨時休業中】

- ・生徒の心のケア：臨時休業中、自宅等で過ごす生徒やその保護者と電話、インターネット等で定期的に連を取り、生徒の心身の状況や学習状況等の把握し、ケアに努めた。特に必要な生徒には、スクールカウンセラー等による電話相談、感染症対策を徹底した上で、保護者の同意を得て、学校において直接対面での指導を行った

【臨時休業後】

- ・生徒の心のケア：分散登校から一斉授業の間に担任による全員面接を実施し、不安の解消や今後の活動の指導を行った。特に配慮を要する生徒合には、養護教諭やスクールカウンセラー等による支援を行った。また、新型コロナウイルス感染症の感染者の保護に努め、それに起因するいじめ、偏見は一切なかった。
- ・感染防止：咳エチケット、手洗いの励行、検温等の健康管理等の感染症対策を徹底し、校内の衛生環境に努め、校内での感染防止が図れた。
- ・学校行事、部活動：感染拡大防止のために、球技大会、合唱コンクール、葵陵祭である文化祭、体育祭、修学旅行、マラソン大会は中止となった。しかし、感染対策のガイドラインに従って、学年別ミニ運動会、球技大会をはじめ、各クラスや部活動が映像を作り、みんなで鑑賞する『燈陽祭(とうひさい)』を開催し、生徒の想像力と実行力を高めることができた。部活動について、大きく活動が制限されたが、その中でもオンラインを活用し個人での活動の支援とともに、ミー

ティング等で、生徒の心のケアと活動の支援を行った。その結果、従来とは異なるが、新たな日常に伴う活動と、生徒の新たな可能性を引き出すことができた。

#### 目標4 地域等との連携「生徒・保護者・地域の人々に理解され信頼される学校」

##### 【臨時休業中】

・情報発信：生徒や保護者が家庭学習、生活等に安心して取り組めるように、郵送や本校 web ページ等で情報発信をした。

##### 【臨時休業後】

・地域との連携：感染拡大防止のため、直接的な連携は従来通りにはできず、オンライン等で地域との連携を工夫した。

・広報活動：参加者を当時の中学校3年生とその保護者に限定し、事前登録、例年の3分の1以下の人数、当日の検温・健康観察など感染拡大防止策を講じながら、学校説明会を実施した。また、学校案内、説明会の様子を動画として本校 web ページに掲載し、本校の魅力を発信した。その結果、入学者選抜では、倍率は推薦、学力とも向上した。

#### 目標5 学校経営「都立としての学校」

##### 【臨時休業中】

・公教育としての責務：新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を行いながら、上記に記したように全教職員で責務を果たせた。また、教育計画の見直しと感染防止のために、自律経営推進予算を適宜見直し、上記に示した教育活動が推進できた。教職員等の感染防止のため、適切な健康管理に努めるとともに、自宅勤務等も適正にできた。

##### 【臨時休業後】

・授業時間確保：臨時休業、分散登校、時差登校に伴う授業時間確保のために、一学期の終期、二学期の始期、夏季休業期間を変更するなど年間行事計画を見直し、例年以上の授業時間が確保できた。

・働き方改革：新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止と部活動ガイドラインと合わせて、従来の校務を見直し、超勤時間の短縮が図れ、育児や介護をはじめとするライフ・ワーク・バランスが推進できた。その結果、教職員は感染の不安がある中、校務に全力で取り組むことができ、本校の教育活動の充実が図れた。

### (別紙) 重点目標への取組と自己評価(数値)

◎：十分達成 ○：ほぼ達成 △：もう一歩 ●：感染拡大防止策を講じたため評価できず

#### 1) 学力向上

●「生徒による授業評価」肯定的評価

→臨時休業、分散登校など新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため評価できず

●1、2年生「外部模擬試験(年度末)」同一学年のデータ前年度超え

→新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため外部模擬試験の会場での実施ができなかったため評価できず

○読書未読率→0%

○全ての教科によるオリンピック・パラリンピック教育の実施→達成

●体力テスト→新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため評価できず

○大学入学共通テスト全国平均超えの科目→18科目中17科目

△大学入学共通テスト受験科目75%以上の得点者→17%

●教科主任会・教科会→月1～2回実施

#### 2) 進路実現

●長期休業中の補習・講習→24講座

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、夏季休業期間の短縮、在校時間の制限のため、例年通りに実施できず)

◎生徒の自主学習時間→1年生201分、2年生206分

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、時差登校による下校時刻の繰り上げ、部活動の活動中止や制限等により、家庭での時間が増加したため)

△学校評価アンケート：進路指導満足度→生徒82%、保護者49%、教職員79%

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、保護者向け進路説明会、進路講演会が例年通り実施できず、オンラインでの情報提供が十分に理解されなかったため)

○国公立大、難関私立大学(早慶上理GMARCH)現役延べ合格者数→169名

### 3)心・知・体を磨く

●生徒遅刻数→1年→0回、2年→217回、3年→0回

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、発熱や風邪等体調不良の場合には欠席や遅刻としなかったため)

△自転車交通事故→負傷するような事故は0件

○学校評価アンケート：充実した学校生活(勉強・学校行事・部活動)→生徒88%、保護者83%、教職員83%

○部活動加入率→91%

△学校評価アンケート：学習と部活動の両立→生徒69%、保護者59%、教職員68%

●都大会進出3回戦以上→新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため評価できず

○特別支援教育に関する委員会→11回

○いじめ調査→3回

○教育相談・個別支援教育研修会→2回

△学校評価アンケート：環境整備による施設設備等の満足度→生徒85%、保護者69%、教職員28%

### 4)信頼され、開かれた学校

●学校内外説明会参加者→1102人(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため参加者を制限して実施)

●学校見学者→854人(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため参加者を制限して実施)

◎ウェブサイト更新→1653回

●地域と連携したボランティア活動→2回(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため回数を制限し、接触の機会を無くしての実施)

△学校評価アンケート：防災教育満足度→生徒76%、保護者47%、教職員72%

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、保護者向け見学会や地域との連携した防災教育が例年通り実施できず、オンラインでの情報提供が十分に理解されなかったため)

○入選倍率(最終応募状況) 推薦2.70倍 一般1.48倍